

I 2017年度 大学評価委員会の評価結果への対応

【2017年度大学評価結果総評】

イノベーション・マネジメント研究センターは、運営委員以外にも多くの兼任研究員、客員研究員をかかえている。研究所が、それらの研究者全体による積極的な活動を展開している点は大変評価できる。

シンポジウムやセミナーは、研究の社会的還元という観点からみて、国際的で具体的なテーマが選ばれており、大変優れた取り組みである。今後、その成果を継続して実行されることに期待したい。

【2017年度大学評価委員会の評価結果への対応状況】（～400字程度まで）

当センターでは、様々な学部の教員が兼任所員として所属しており、研究プロジェクトを積極的に行っている。兼任所員には原則、科研に応募もしくは継続事業を持っていることを条件とし、今後も兼任所員には本条件を課する。また、外国人客員研究員を受入れ、当センター所員の指導により研究を行っている。他の客員研究員についても、当センターの研究プロジェクトなどに所属し、セミナーやワーキングペーパー等で研究成果を報告した。

また、法政大学として平成26年度に採択されたスーパーグローバル大学等事業「スーパーグローバル大学創成支援」に基づき、当センターでも国際性の高い事業等に取り組んでいる。具体的な活動として、海外から講師を招聘し、国際シンポジウムを開催した。

【2017年度大学評価委員会の評価結果への対応状況の評価】

イノベーション・マネジメント研究センターでは、兼任所員の条件として科研に応募もしくは継続事業を持っていることとしており、また兼任所員と客員研究員とが協力しあい、研究プロジェクトへの所属やセミナーへの参加、研究成果報告などを通して、積極的に研究への取り組みがなされており、高く評価できる。国際シンポジウムを通して、海外との連携にも意欲的に取り組んでいる。

II 自己点検・評価

1 理念・目的

【2018年5月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

1.1 大学の理念・目的を適切に設定しているか。また、それを踏まえ、研究所（センター）の目的を適切に設定しているか。

①研究所（センター）として目指すべき方向性等を明らかにした理念・目的が設定されていますか。  はい  いいえ

（～400字程度まで）※理念・目的の概要を記入。

1. 理念

<http://riim.ws.hosei.ac.jp/outline/philosophy.html>

2. 目的（研究の必然性）

<http://riim.ws.hosei.ac.jp/outline/inevitability.html>

②理念・目的の適切性の検証プロセスを具体的に説明してください。

（～400字程度まで）※検証を行う組織（各種委員会等）や検証の時期等、具体的な検証プロセスを記入。

定期的開催する運営委員会において、個人研究プロジェクト、叢書、学術雑誌の寄稿等の募集を通じ理念・目的の適切性を確認している。

1.2 大学の理念・目的及び研究所（センター）の目的を教職員及び学生に周知し、社会に対して公表しているか。

①どのように理念・目的を教職員及び学生に周知し、社会に対して公表していますか。

（～400字程度まで）※具体的な周知・公表方法を記入。

ホームページで公表 (<http://riim.ws.hosei.ac.jp/outline/philosophy.html>)

(2) 長所・特色

内容	点検・評価項目
当センターには様々な学部の教員が兼任所員として所属している。特に近年は、毎年、新規で兼任所員に委嘱する教員がいる。また、研究プロジェクト遂行上の必要性に応じて、外部の研究者や	

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

実務家を客員研究員として迎え入れ、兼担所員と客員研究員の共同研究のための環境整備に取り組んでいる。なお、所員には、当センターの「理念・目的」を理解したうえで委嘱している。

(3) 問題点

内容	点検・評価項目
特になし。	

【この基準の大学評価】

イノベーション・マネジメント研究センターでは、様々な学部の教員により構成される兼担所員や、外部の研究者や実務家から構成される客員研究員とが、センターの理念・目的を共有したうえで、共同研究に取り組んでおり、また理念・目的は外部に向けてもホームページで広く公開しており、評価できる。理念・目的の適切性の検証は、運営委員会において定期的になされている。

2 内部質保証

【2018年5月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

2.1 内部質保証システム（質保証委員会等）を適切に機能させているか。

①質保証活動に関する各種委員会は適切に活動していますか。 はい いいえ

【2017年度における質保証活動に関する各種委員会の構成、活動概要等】※箇条書きで記入。

- ・所員の構成は、所長1名、副所長1名、運営委員7名、兼担所員34名、客員研究員16名（2018年3月31日時点）。
- ・運営委員会を年5回実施。運営委員会では、セミナーやシンポジウム等の催事の計画や報告、新所員の委嘱、叢書の出版、その他当センターにおける運営事業全般について審議、報告する。

(2) 長所・特色

内容	点検・評価項目
運営委員会を定期的実施することで、様々な所員の意見を集約でき、適切な運営業務を行える。	

(3) 問題点

内容	点検・評価項目
2018年度の運営委員の所属は偏っており、2019年度の委嘱の際には幅広い分野の見解を得るため、異なる学部の教員に運営委員を依頼する。	

【この基準の大学評価】

イノベーション・マネジメント研究センターでは、7名によって構成される運営委員会を年5回開催して、センター全体の質保証活動への取り組みが定期的になされている。2018年度には、より幅広い分野の見解が反映できるよう、運営委員の所属学部の偏りを見直す試みがなされており、効果が期待される。

3 研究活動

【2018年5月時点における点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

3.1 研究所（センター）の理念・目的に基づき、研究・教育活動が適切に行われているか。

2017年度の活動状況について項目ごとに具体的に記入してください。

①研究・教育活動実績（プロジェクト、シンポジウム、セミナー等）

※2017年度に実施したプロジェクト、シンポジウム、セミナー等について、開催日、場所、テーマ、内容、参加者等の詳細を箇条書きで記入。

1 研究プロジェクト

- ①スポーツチーム・マネジメント研究会（荒井弘和）
- ②ブランド・マネジメント研究会（小川孔輔）

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

- ③ロジスティクス・クラスター研究会（李瑞雪）
- ④消費者行動とマーケティング戦略研究会（新倉貴士）
- ⑤地域活性化研究会（木村純子）
- ⑥半導体製造装置産業における製品アーキテクチャ変遷とサプライヤー・マネジメント（田路則子）
- ⑦戦後日本における鉄道事業経営史（二階堂行宣）
- ⑧統合思考研究会－非財務情報と企業価値の関係性に関する実証分析－（長谷川直哉）
- ⑨産業クラスターの知的多様性とグローバリゼーション－集合知経営の構築－（洞口治夫）
- ⑩大学におけるスポーツに関連する CSR 活動の調査研究（井上尊寛）【新規】
- ⑪ファイナンスと数理科学の融合（山崎輝）【新規】
- ⑫企業家史研究会（長谷川直哉）【新規】
- ⑬日仏労働市場の比較（奥西好夫）【新規】
- ⑭地域イノベーション研究会（松本敦則）【新規】
- ⑮新興国企業の国際化（安藤直紀）【新規】

## 2 シンポジウム、セミナー等

- ①出版記念公開セミナー「地域商業の底力を探る－商業近代化からまちづくりへ」  
2017年6月22日 法政大学 ボアソナード・タワー26階 スカイホール
- ②法政大学・国立政治大学・淡江大学「日本・台湾 交流セミナー」  
2017年11月22日 法政大学 ボアソナード・タワー26階 スカイホール
- ③国際シンポジウム「地理的表示制度と経済連携協定  
－EU、イタリア、および日本における GI の実践と効果－」  
2017年11月24日 法政大学 ボアソナード・タワー26階 スカイホール
- ④【共催】国際シンポジウム「物流人材育成における大学と企業のコラボレーション」  
2018年1月27日 法政大学 ボアソナード・タワー26階 スカイホール
- ⑤シンポジウム「海外のジャイアントに学ぶビジネス・エコシステム」  
2018年2月2日 法政大学 ボアソナード・タワー26階 スカイホール
- ⑥セミナー「環境経営とアカウンタビリティ」  
2018年3月5日 法政大学 ボアソナード・タワー26階 スカイホール

## 3 公開講座

『アウトサイド・イン』の視点を持った企業家たち  
－持続可能なビジネスを構想した企業家の戦略的アプローチ－  
2017年10月14日、2017年11月11日、2017年12月9日 計3回  
法政大学 ボアソナード・タワー25階 研究所会議室5

### 【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

- ①研究プロジェクト (<http://riim.ws.hosei.ac.jp/research/activities/project.html>)
- ②シンポジウム、セミナー等  
(<http://riim.ws.hosei.ac.jp/research/activities/symposium-2.html>)
- ③公開講座 (<http://riim.ws.hosei.ac.jp/research/activities/lecture.html>)

### ②対外的に発表した研究成果（出版物、学会発表等）

※2017年度に刊行した出版物（発刊日、タイトル、著者、内容等）や実施した学会発表等（学会名、開催日、開催場所、発表者、内容等）の詳細を簡条書きで記入。

- 1 学術雑誌 1冊  
イノベーション・マネジメント No.15
- 2 研究叢書 2冊
  - ①統合思考とESG投資－長期的な企業価値創出メカニズムを求めて－
  - ②MBAのナレッジ・マネジメント－集合知創造の現場としての社会人大学院－
- 3 ワーキングペーパー 14件

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

- ①No. 177 『法政大学イノベーション・マネジメント研究センターシンポジウム  
「ブランドとグローバルエコノミー ブランド戦略の変容」講演録』
- ②No. 178 『Are Geographical Indications (GIs) Effective Value  
-Adding Tools for Traditional Food?  
Insights from the Newly Established Japanese GIs System』
- ③No. 179 『小売業における多様な雇用形態の人事管理と就業意識・企業内キャリア  
-「第6回 JSD 意識調査」の個票に基づく2次分析-』
- ④No. 180 『世界に奉仕する人材の育成 一星一のケース』
- ⑤No. 181 『Current State and Prospect of Korean Courier Service Industry  
with Some Reference to Japanese Experience』
- ⑥No. 182 『Internet-Based Vehicle-Cargo Matching Platform Enterprises in China』
- ⑦No. 183 『Probability Weighting and Default Risk  
: A Solution for Asset Pricing Puzzles』
- ⑧No. 184 『法政大学イノベーション・マネジメント研究センターシンポジウム  
「海外のジャイアントに学ぶビジネス・エコシステム」講演録』
- ⑨No. 185 『地域経済における「情報の産業化」と「産業の情報化」  
-地域産業関連表によるアプローチ』
- ⑩No. 186 『有吉孝一 オーラル・ヒストリー』
- ⑪No. 187 『西浦英次 オーラル・ヒストリー』
- ⑫No. 188 『栗山泰史 オーラル・ヒストリー』
- ⑬No. 189 『食品製造販売会社Aの組織診断報告書』
- ⑭No. 190 『第一生命における創業の精神と株式会社化』

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

- ①学術雑誌 (<http://riim.ws.hosei.ac.jp/research/results/journal.html>)
- ②研究叢書 (<http://riim.ws.hosei.ac.jp/research/results/publication.html>)
- ③ワーキングペーパー ([http://riim.ws.hosei.ac.jp/research/results/working\\_paper.html](http://riim.ws.hosei.ac.jp/research/results/working_paper.html))

③研究成果に対する社会的評価（書評・論文等）

※研究所のこれまでに発行した刊行物に対して2017年度に書かれた書評（刊行物名、件数等）や2017年度に引用された論文（論文タイトル、件数等）の詳細を簡条書きで記入。

- 1 シリーズ公開講座には内外の研究者や大学院生の参加を得た。
- 2 所員による研究書籍は、学会、学術雑誌等で書評を得ている。なお、確認できただけで、学会発表を含め52件に引用されている。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

特になし。

④研究所（センター）に対する外部からの組織評価（第三者評価等）

（～400字程度まで）※2017年度に外部評価を受けている場合には概要を記入。外部評価を受けていない場合については、現状の取り組みや課題、今後の対応等を記入。

特に第三者評価は受けていない。年5回の運営委員会を実施し、適正な運営を行う。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

特になし。

⑤科研費等外部資金の応募・獲得状況

※2017年度中に応募した科研費等外部資金（外部資金の名称、件数等）および2017年度中に採択を受けた科研費等外部資金（外部資金の名称、件数、金額等）を簡条書きで記入。

所員の科研費の応募は、定年延長者等の特段の事情を除き専任教員に義務付けている。2017年度に応募した2018年度の科研費の獲得は、分担者、基金、補助金を含め所員58人中28人であり、32件であった。なお、所員には客員研究員を含む。

また、民間企業からの受託研究が新規1件、継続1件ある。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

特になし。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

(2) 長所・特色

内容	点検・評価項目
<p>当センターでは、セミナー・シンポジウムなどで積極的に外部に研究成果を公表し、学術雑誌や叢書などの定期刊行物を発行することで、外部への認知も高めている。なお、2015年度に発行した叢書11「企業家活動でたどるサステイナブル経営史—CSR経営の先駆者に学ぶ—」（長谷川直哉編著）は環境経営学会より「学術貢献賞」を、叢書12「事象アプローチによる会計ディスクロージャーの拡張」（坂上学著）は日本経営分析学会より「森脇賞」を受賞した。</p> <p>ワーキングペーパーでは、原則、ホームページに電子媒体による公開としているため、迅速に研究成果を外部に公表できる。英語によるワーキングペーパーを発行する際には、校閲料を当センターで一部負担することで、海外のジャーナルへの投稿をやすくしている。</p> <p>また、毎年、数々の研究プロジェクトを実施しており、所員の科研費申請を促すなど研究促進に努めている。</p>	

(3) 問題点

内容	点検・評価項目
特になし。	

【この基準の大学評価】

<p>イノベーション・マネジメント研究センターでは、15の研究プロジェクトを設置しており、科研費申請を促す環境が整っている。また、シンポジウムやセミナーの開催、学術雑誌や研究叢書の出版を通して、広く内外に成果を公表しており、特にワーキングペーパーにおける研究成果の公開は、前年度の5件から14件に増え、高く評価できる。過年度の活動に関しても、2017年度には「学術貢献賞」や「森脇賞」の受賞を通して、その成果が高く評価されていることがわかる。英語による研究成果を支援する体制も整備されており、さらなる効果が期待される。今後は、シンポジウム、セミナー等への参加者を把握して、参加人数を明記することが望ましい。</p>
---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

4 教育研究等環境

【2018年5月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

4.1 教育研究を支援する環境や条件を適切に整備し、教育研究活動の促進を図っているか。	
①ティーチング・アシスタント (TA)、リサーチ・アシスタント (RA)、技術スタッフなどの教育研究支援体制はどのようになっていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
(～400字程度まで) ※教育研究支援体制の概要を記入。 リサーチ・アシスタント (RA) を雇用し、所員の研究補助など研究支援業務を行っている。	
【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。 特になし。	

(2) 長所・特色

内容	点検・評価項目
リサーチ・アシスタントの業務は所員（客員研究員を除く）から公募している。現在、リサーチ・アシスタントは本学の博士課程に在籍している大学院生で、研究と教育の両分野において貢献している。	

(3) 問題点

内容	点検・評価項目
特になし。	

【この基準の大学評価】

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

イノベーション・マネジメント研究センターでは、リサーチ・アシスタント（RA）制度を活用して、本学の博士後期課程に在籍する大学院生を雇用することを通して、所員の研究補助を行っており、教育研究支援体制が整えられている点が評価できる。

## 5 社会連携・社会貢献

### 【2018年5月時点の点検・評価】

#### (1) 点検・評価項目における現状

5.1 社会連携・社会貢献に関する方針に基づき、社会連携・社会貢献に関する取り組みを実施しているか。また教育研究成果等を適切に社会に還元しているか。

①学外組織との連携協力による教育研究の推進に関する取り組み及び社会貢献活動を行っているか。

S  A B

(～400字程度まで) ※取り組み概要を記入。

セミナーやシンポジウムを開催することを通じて最新の研究成果を社会に還元している。なお、公開講座はシリーズ化され、広く一般の方に周知されている。また、デポジット・ライブラリーとして流通・消費財産業と企業経営に関する専門的な図書や社史、団体史、伝記、また政策関連の灰色文献を収集し、研究活動を深めるとともに広く一般に公開している。

【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。

特になし。

#### (2) 長所・特色

内容	点検・評価項目
<p>所員がコーディネートし、シンポジウムやセミナーを開催している。講師には大学の教員だけでなく、企業の実務家や海外の外交官など幅広い分野において研究成果を公表している。特に近年では、海外から講師を招聘した国際シンポジウムを毎年実施し、国内にとどまらず、当センターでの研究成果を広く喧伝している。</p> <p>また、デポジット・ライブラリーとして流通・消費財産業と企業経営に関する蔵書を保管し、特に一般的に流通していない灰色文献や社史については他の図書館に見劣りしない蔵書数がある。</p>	

#### (3) 問題点

内容	点検・評価項目
<p>蔵書の収集方法はこれまで寄贈を主として実施してきたが、過去の社史や貴重資料については寄贈により入手することが困難であるため、今後は購入もあわせて検討していく。</p>	

### 【この基準の大学評価】

イノベーション・マネジメント研究センターでは、研究成果の社会への貢献として、セミナーやシンポジウムや公開講座を積極的に開催しており、高く評価できる。デポジット・ライブラリーとしての機能も果たし、他の図書館に類をみない蔵書数を抱えており、研究用途だけでなく一般にも広く公開されている点も優れている。蔵書収集方法について、これまでの方針を変更して購入も検討しているとのことであり、効果が期待される。

## 6 大学運営・財務

### 【2018年5月時点の点検・評価】

#### (1) 点検・評価項目における現状

6.1 方針に基づき、学長をはじめとする所要の役職を置き、教授会等の組織を設け、これらの権限等を明示しているか。また、それに基づいた適切な大学運営を行っているか。

①所長（センター長）をはじめとする所要の職を置き、また運営委員会等の組織を設け、これらの権限や責任を明確にした規程を整備し、規程に則った運営が行われていますか。

はい  いいえ

(～200字程度まで) ※概要を記入。

規定や運用規則に基づき、定期的に運営委員会を開催し、運営方針や事業計画などを議論している。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。

特になし。

(2) 長所・特色

内容	点検・評価項目
2017 年度については懇親会で所員から情報収集を行った。また、近畿大学経営イノベーション研究所との情報交換も行い、当センターの運営について外部の方からの意見も伺った。当センターにおける運営については適切に行われているということが改めて確認できた。	

(3) 問題点

内容	点検・評価項目
特になし。	

【この基準の大学評価】

イノベーション・マネジメント研究センターでは、規程に基づき、運営委員会を開催し、運営方針や事業計画を議論しており、規程に則った運営が行われていると考えられる。運営委員会での検討を補うため、2017 年度には新たに懇親会を開催して所員から情報収集も行うなど、組織の規模に即した情報の共有の工夫が行われている。

III 2018 年度中期・年度目標

No	評価基準	研究活動
1	中期目標	研究プロジェクトを公募し、研究のサポートを行うとともに、所員の研究成果を学術雑誌、研究叢書、およびワーキングペーパーの形で積極的に発信することで、学界に貢献する。さらに、特色あるデポジット・ライブラリーを構築し、他に類のない体系的な図書・資料をコレクション方式により重点収集、整理、公開利用を行うと共に、収集した図書・資料の活用を通じて調査・研究の向上に寄与する。
	年度目標	研究成果物の質と量の向上をはかる。所員で研究チームを形成して研究プロジェクトの推進をはかる。
	達成指標	叢書 2 冊の発刊、学術雑誌に掲載する論文数 10 本（研究ノートや寄稿等も含む）、ワーキングペーパー 10 本を目指す。
2	中期目標	社会貢献・社会連携
	年度目標	継続的な資料収集を通じて、流通産業ライブラリーの充実を図ると共に、研究者また学生への資料提供を行うことで、流通・消費財産業の研究の促進、また人材の育成に貢献する。
	達成指標	野村総合研究所等から寄贈された灰色文献等の貴重な図書の目録データを構築し、デポジットライブラリーとしての価値を高める。また、これらの資料を大学院生や学外の研究者に広く提供する。2018 年度については、図書システムの移行があるため、新規での目録データを 1,000 件程度作成することを目標とし、図書館の機能を充実させる。
3	中期目標	社会貢献・社会連携
	年度目標	公開講演会、シンポジウムを開催することを通じて最新の研究成果を社会に還元する。
	達成指標	継続的な研究活動の推進につながるシリーズ講演の実行や、海外の研究機関との関係づくりに尽力する。シンポジウムまたは講演会 5 回を目標とし、講演録やサマリーを残せるようにレベルの充実をはかる。
4	中期目標	社会貢献・社会連携
	年度目標	公開講座や寄付講座の継続実施に向け、適切なテーマ・開催方法等を検討する。
	達成指標	学外研究者を対象とした公開講座や、学生の教育を目的とした寄付講座を適宜実施する。所員の教育活動も支援できるような公開講座を実施する。また、学生の教育を目的とした寄付講座を実施する。

※注 1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注 2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

### 【重点目標】

当センターの研究活動として、叢書および学術雑誌の発刊、ワーキングペーパーの公開を定期的に行ってきた。2018 年度については研究プロジェクトが 18 件と多く、研究成果をこれらの媒体を利用し、これまで以上に積極的に公開したい。そのため、研究プロジェクトをもつ所員に学術雑誌の寄稿やワーキングペーパーの応募を改めて周知する。

### 【2018 年度中期・年度目標の大学評価】

イノベーション・マネジメント研究センターでは、研究活動、社会貢献・社会連携、それぞれの項目において、中期目標を適切に設定し、具体的な年度目標が掲げられている。特に、社会貢献・社会連携に関しては、3 項目（資料収集および資料提供、公開講演会等の開催、講座の実施）に分けて目標が設定されており、積極的な取り組みが大いに評価できる。

重点目標には、研究プロジェクトが 18 件進行中であることも示されており、成果の発信に向けて組織として意欲的に取り組んでいる。

### 【大学評価総評】

イノベーション・マネジメント研究センターは、所長 1 名、副所長 1 名、運営委員 7 名、兼担所員 34 名、客員研究員 16 名からなる組織であり、様々な所属学部の教員が集う場となり、幅広い分野の見解を共有できるよう積極的に取り組んでいる。2018 年度は 18 の共同プロジェクトを中心に研究を行っており、また論文執筆やシンポジウム開催を通して成果を継続して広く社会に還元しており、評価できる。資料収集においても継続的な取り組みがなされており、さらなる収集を可能にする手段、および資料を学内外の研究者および学生に提供するための整備が計画されており、効果が期待される。

※注 1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注 2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。